



「コロナ禍でたばこ需要も変化しているので、対応したい」と語る中井幹太支社長＝岐阜新聞本社

販売のてこ入れに力

中井JT東海支社長が意欲 本社訪問

先月1日付で、日本たばこ産業(JT)東海支社長に就任した中井幹太氏が17日、岐阜新聞本社を訪れ、

矢島薫社長と面談した。中井支社長は「東海圏は人口規模が大きく、重要なエリア。たばこ販売のてこ入れに力を入れたい」と抱負を語った。

中井支社長は1995年に入社し、たばこ事業本部事業企画室部長などを経て着任した。

コロナ禍で進んだ働き方改革により、自宅で吸いやすい加熱式たばこの販売が増えたという「(他社との競合で)巻き返したい」と強調。喫煙者と禁煙者の共存にも触れ「環境整備の手伝いを引き続き進める」と語った。

国内外のたばこ事業の一本化や、支店を廃止して全都道府県に支社を配置する運営体制の見直しにも触れ

「経営の効率化と権限委譲によりスピード感ある意思決定を実現したい」と説明した。地域貢献の分野では「(森林保全活動の)JTの森やJTフォーラムなど、地域と連携しながら盛り上げていきたい」と語った。